



公益財団法人日本YWCA

震災復興に向けた、 ふくしまの子どもと女性の支援

日本YWCAの東日本大震災被災者支援...

全国24か所にあるYWCAの会員有志で結成された、
「地域連携委員会」com7300が運営

■ com →ラテン語で「ともに」

■ 7300 →2011年に生まれた子どもたちが20歳を迎える
までの日数（20年＝7300日）

被災された女性と子どもたちの心身を守り、課題
解決のチカラとなることを願うプロジェクト

なぜ、20年の支援を行うのか？

女性や子どもや高齢者など、
弱い立場におかれている人びとの力を取り戻すことを目指すNGO

1970年より「『核』否定の思想に立ち」活動をしている。
東京電力福島第一原子力発電所事故により、大きな被害を受け続けている福島の女性や子どものサポートに取り組むことは、同時に「核」の問題と向き合い続けること。

東日本大震災支援・3つの柱

1. **リフレッシュプログラム**(保養プログラム)
2. **セカンドハウスプログラム**(家族滞在型保養)
3. **カーロふくしまを拠点とする活動**

リフレッシュ(保養)プログラム セカンドハウスプログラム

放射能の影響が大きい地域で暮らす子どもと大人が
心身ともにリフレッシュするプログラム

※実施スタッフ...ボランティア(一般/学生)、会員、職員

※財源...セカンドハウス住居は大家様より無償提供。
助成金、寄付金、ファンドレイジング、



上・名古屋YWCA、下・大阪YWCA

カーロふくしま 東日本大震災支援拠点 イタリア語「親愛なる」

- ・おはなし会
- ・ワークショップ
- ・福島Ysカフェ(福島YWCA主催)
- ・出張相談会(いわき市、二本松市、白河市)
- ・スペースの貸し出し、会場提供 など



知りたい聴きたい保養のおはなし

カーロでスタディ

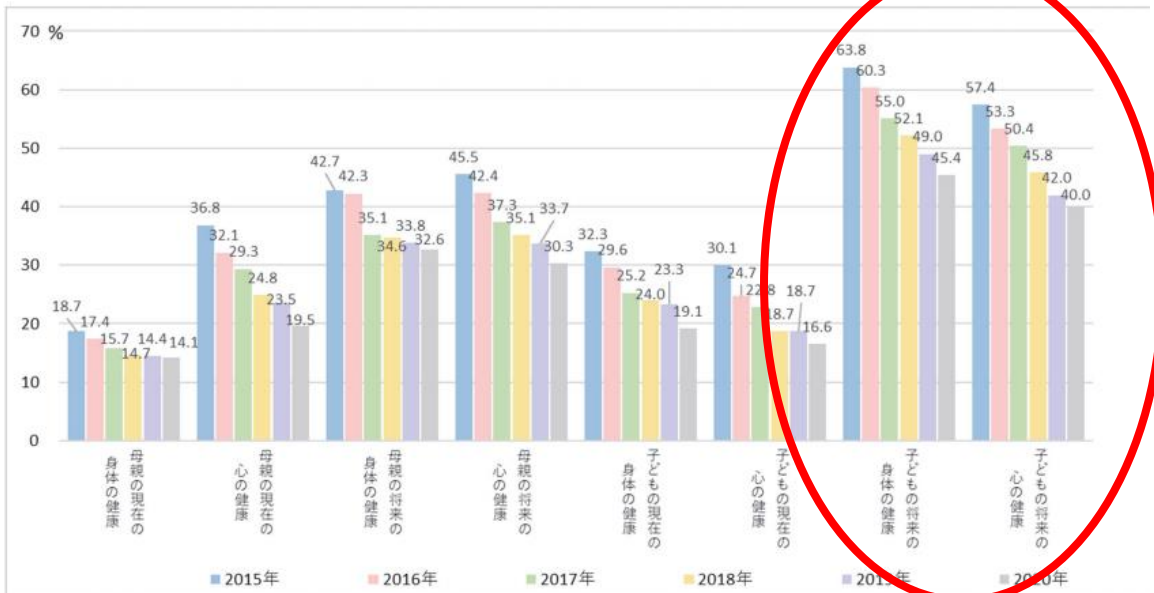
_____コロナ禍での、子どもたちへの学習支援

※2019年度利用者実績...のべ537名/月45名



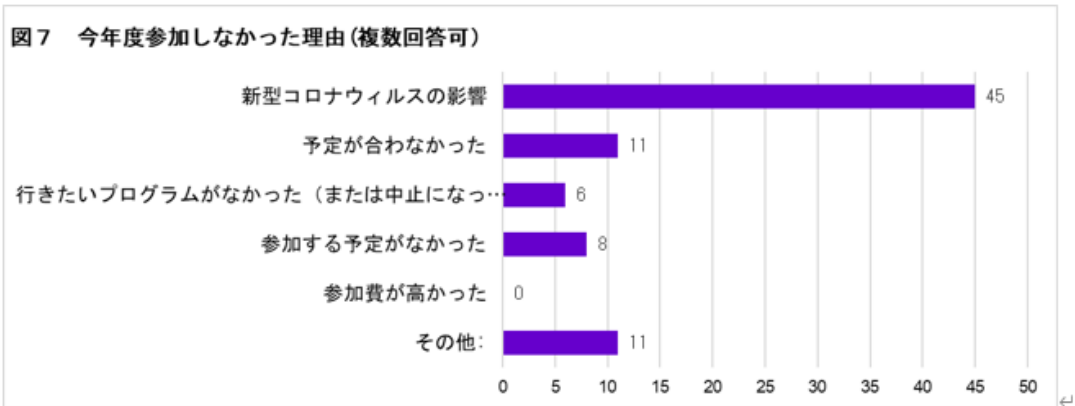
女性や子どもたちの サポートから 見えてきたもの

健康に対する、放射能の影響度



4. 今年度の保養に参加しなかった理由（参加しなかった人のみ） ←

←



311受入全国協議会「保養に関するアンケート調査」(2021年2月実施)より

「震災当時、原発の知識がなく、避難もせず福島にいましたが、後になって、どんなに恐ろしいことが起きていたか、だんだんわかってきて後悔の日々です。子どもの健康が心配です。でも家の事情や金銭的な問題で二重生活や移住はできません。セカンドハウスでは母子3人思いっきりリフレッシュできました。戻ってまたがんばろうと思えました」

(横浜セカンドハウス参加者)

今は穏やかに日常生活を送っていますが、中1の娘の将来を考えると何とも言えない不安になります。

これから、大学進学や就職などで県外に出て生活する可能性が出てきます。その時に「福島出身」ということで差別やいじめを受けるのではないかと。また、結婚・出産の時に反対されないか。

以前、娘の同級生男子のお母さんが、何気なく「お嫁さんは遠くの県出身だといいな」と言っていて、同県人でさえこういう目でみるのか、とショックを受けました。

(カーロふくしま利用者)

決して特別ではない。ただあなたの周りにいないだけ。

不安に思う人がひとりでもいる限り、
ほんとうの復興ではない

これからの課題と希望

- ・社会状況に合わせたあたらしい活動
- ・「支援なれ」「支援される」から「支援する」へ
- ・震災10年を迎え、支援20年の折り返し
...「寄り添う支援」に加え「**背中を押す支援**」を
子どもたちの将来へ向けて、学びの支援、活躍の場づくりと
健康支援

あたらしい福島を体現する、ユースのリーダーシップ養成

＼ありがとうございました／